

2. 環境に応じた防犯対策

環境に応じた防犯対策

規準 12b 地域の特性に対する課題や問題を理解している。

23b 建物の種類や特性に応じた対策を理解し説明できる。

24b 地域の地理などの特性を理解し、防犯のポイントが説明できる。

- ねらい：**
- 12b ① 住宅街や商店街などの特性と防犯上の課題について説明できる。
 - 23b ② マンション、団地などの集合住宅での安全確保について説明できる。
 - 24b ① 助けを呼んでも聞こえない場所を具体的に把握している。
 - 24b ② 犯罪者が「動きやすく」「見えにくい」時間について説明できる。
 - 24b ⑤ 駅周辺や繁華街・商店街などでの安全確保について説明できる。

住宅地、マンションなどの集合住宅、繁華街など、それぞれの環境ごとに行うべき防犯対策は異なります。そのため、環境ごとの特徴を理解し、対策を立てることが必要です。

① 駅周辺や商店街

駅周辺や商店街や繁華街は人が多く集まる場所です。買い物や通勤をする人の増える時間帯は、犯罪者も周囲に溶け込み、身を隠しやすくなり、子どもが犯罪に巻き込まれていても周囲が気がつかない等、死角が生まれやすくなります。

また、建物と建物の間など人気が少ない場所もあります。このような環境で犯罪から子どもを守る手段としては、店舗や商店街の協力を得て、子ども 110 番の家の協力店を増やす等、地域の関心も高め、子どもが逃げ込める場所を多く確保することが必要です。

また、周辺の人気の少ない路地などは、犯罪が起きやすい傾向があります。清掃活動や美化活動を行う等の環境整備や、定期的なパトロールをすることによって人の目が届いていることをアピールすることが大切です。また、犯罪抑止のため、防犯カメラを設置している商店街や繁華街も増えています。



▲子ども 110 番の家



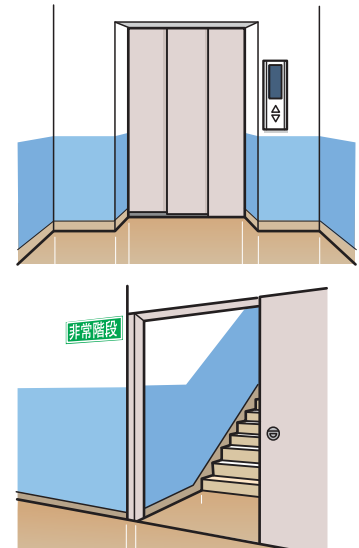
▲建物の間の路地

②集合住宅

多くの人が住むマンションや団地などの集合住宅の場合、不特定多数の人間が入りやすいという性質があります。

集合住宅ではエレベーターやエレベーターホール、階段の踊り場、非常階段等、人目の届きにくいところで子どもが痴漢や露出の被害に遭うことがあります。

そのため、集合住宅でもパトロールを行い、集合住宅における注意点を子どもに指導する必要があるでしょう。近年では管理者によって対策が講じられているマンションも増えています。死角を減らすために防犯カメラやミラーを設置したり、日中でも暗いところには照明を設置し、明度を確保する等、ハード面での環境整備が行われています。また、近隣で顔見知りの関係になっておくことも有効な防犯対策であると言えます。



③駐車場や駐輪場

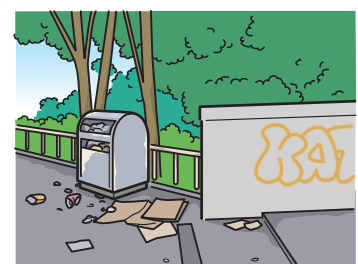
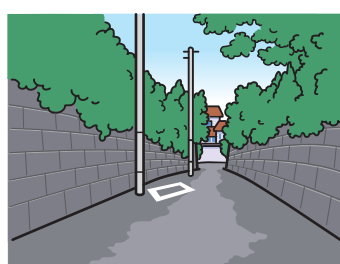
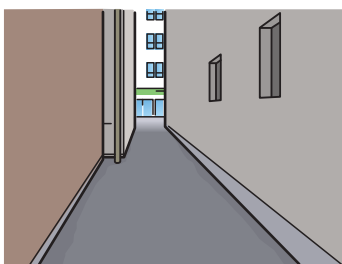
駐車場や駐輪場も子どもを狙った犯罪が多い場所です。駐車場では、停まっている車のドアが急に開いて引き込まれそうになった等の誘拐未遂や、連れ去りの被害が発生しています。

また、駐輪場では自転車を停める隙を狙って、体に触れるといった痴漢の被害が発生しています。どちらも暗い場所には照明を設けたり、死角を減らしたりする等、環境を改善する対策が求められます。また、駐車場では遊ばない、駐輪場に自転車を停める際には周囲を確認するよう、子どもへ指導を行う必要があります。

④住宅街

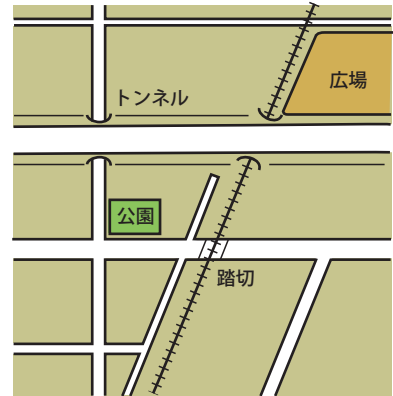
住宅街では、地域点検や安全マップ作りを行い、周囲の視線が届かない路地や人通りの少ない道、管理のされていない空き地や公園、夜間になると街灯が少なく暗い場所などを、把握することが大切です。環境の改善が可能な場合は、地域の清掃や街灯の設置を行って安全性を高めるように努めます。

また、多くの人が働きに出ている日中は、大人の目が減る傾向があります。子どもが犯罪に遭うことが多い登下校時間帯では見守り活動を中心にした対策を行います。また、「通勤をしながら」「散歩をしながら」などの「ながらパトロール」を推進して、登下校以外の時間でも大人の目が行き届いている地域の状態を確保することが大切です。



助けを呼んでも聞こえない場所

子どもが助けを呼んでも聞こえない場所には、人の行き来が少なく「助けを呼ぶ声を聞く人が周囲にいない場所」、交通量の多い道路の近くや電車の通る橋の下など、「助けを呼ぶ声が遮られてしまう場所」、公園などで助けを求めてあげた悲鳴が遊んでいるだけと「勘違いされてしまう場所」などがあります。地域内のこうした場所を把握するとともに、安全マップ作りなどを通じて子どもたちへ周知徹底することが必要です。



子どもが巻き込まれた犯罪の種別と場所 (平成 21 年犯罪白書 警察庁)

区分 \ 罪種	殺人	強盗	強姦	暴行	傷害	脅迫	恐喝	窃盗犯
駅・鉄道施設	3	4	4	251	116	2	55	3632
共同住宅	40	34	152	404	467	58	136	25446
駐車(輪)場	2	31	54	422	577	17	356	118834
都市公園	4	15	21	293	622	6	202	3931

上の表は、警察庁より発表された資料から抜粋したものである。上記の表において、共通して多い罪種は窃盗犯であり、すべての区分で最多となっている。また、子どもが巻き込まれる犯罪としては、暴行、傷害が多いことがわかる。



ビデオ教材 (ビデオ→環境に応じた防犯対策)

ビデオを見て、環境ごとの防犯対策のポイントをまとめてみましょう。
